

S2
52

420/134

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-28059

(43) 公開日 平成11年(1999) 2月2日

(51) Int. Cl.⁶ 識別記号
A 23 F 5/36
A 23 L 2/00

F I
A 23 F 5/36
A 23 L 2/00 W

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-200929

(22) 出願日 平成9年(1997) 7月10日

(71) 出願人 592246521

オリジナル産業株式会社
東京都昭島市宮沢町496

(72) 発明者 新藤 慎一

東京都昭島市宮沢町496 オリジナル産業
株式会社内

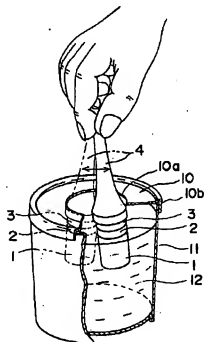
(74) 代理人 弁理士 逢坂 宏

(54) 【発明の名称】 飲料材料及びそのセット

(57) 【要約】

【課題】 インスタントコーヒーの材料の取り出しが簡素化されると共に、容易に調合ができるような飲料材料セットを提供すること。

【解決手段】 材料としての固形化したコーヒー粉1、砂糖2、粉乳3を棒状に結合し、これを支持体4の大径部4aで支持して一体化させ、専用のカップ11に湯を注いで蓋10の開口10aから支持体4の大径部側に支持されている材料を挿入して攪拌する。



1

【許諾請求の範囲】

【請求項1】 互いに種類の異なる複数の可溶性の飲料素材が支持材に支持され、前記飲料素材を溶かす際に前記支持材がその攪拌に用いられる飲料材料。

【請求項2】 請求項1に記載した飲料材料と、この飲料材料を挿入する挿入口が蓋部に設けられている容器とを有する飲料材料セット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、飲料材料（例えば、インスタントコーヒーの材料としてのコーヒー粉、砂糖、粉乳が固形化されて支持体に支持されたもの）と、これを溶かして飲むために容器と組み合わせられたセットに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 加工食品を乾燥させ、必要に応じてこれに湯又は水を加えて飲食するいわゆるインスタント食品は、コーヒーやラーメンをはじめ各種のものが存在し、長期間の保存が可能であると共に、食品を煮るという手間のかかる工程が省けることから広く普及している。

【0003】 例えば、従来のインスタントコーヒーにおいては、コーヒー豆から抽出し乾燥させたコーヒー粉がびん詰めになっており、これから適量をカップに入れて更に湯を注いで溶かし、好みに応じて砂糖やミルクを加えて飲むのが一般的である。また、コーヒー粉、砂糖及び粉乳が1カップ分ずつの混合されてスティック状に包装されたものもあり、また、スティック状に包装した砂糖やプラスチック等の容器に区分けされた液状ミルクもあり、多用されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 このように、非常に便利なインスタントコーヒーも、例えば、旅先や旅の途上等において使用する場合、それぞれの材料ごとに包装容器から取り出して調合する作業は外煩わしいものであり、まして風が強い屋外や、揺れる車内等においては、材料が飛散することもある。

【0005】 本発明は、上記の事情に鑑みてなされたものであって、例えばインスタントコーヒーにおけるコーヒー粉、砂糖、粉乳等の如き複数の材料の取り出しが簡素化され、容易に調合ができるような飲料材料及びそのセットを提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 即ち、本発明は、互いに種類の異なる複数の可溶性の飲料素材が支持材に支持され、前記飲料素材を溶かす際に前記支持材がその攪拌に用いられる飲料材料に係るものである。

【0007】 ここにおいて、「支持材」とは、例えば、固形状の飲料素材を外部に取り付けて支持している棒状体をはじめ、固形又は粉末状あるいは液状の飲料素材を内部に収容、支持している筒状体をも含む概念である。ま

2

た、この支持材に「支持され」とは、複数の飲料素材が個々に支持される場合に限らず（また、その形態も固形、粉末等、様々であってよい。）、互いに混合した混合物として支持されることを含む概念である。

【0008】 本発明の飲料材料によれば、可溶性の飲料素材が支持材に支持されており、この支持材で攪拌しながら飲料素材を溶かせるので、種類の異なる素材ごとに取り出す手間が簡素化され、支持材で素材を支持したまま湯などの中に入れて攪拌し、調合することができるため、例えば材料を取り出す際に飛散するようなことを防止できる。

【0009】 本発明はまた、上記した本発明の飲料材料と、この飲料材料を挿入する挿入口が蓋部に設けられている容器とをセットにして用いる飲料材料セットを提供するものである。

【0010】 この飲料材料セットによれば、容器に蓋をして挿入口から材料を挿入して攪拌することができるので、材料等の中味がこぼれることが防止できる。

【0011】

20 【発明の実施の形態】 本発明においては、飲料材料は、素材ごとに例えば固形化し、これらを例えば一列状に結合して棒状の支持材を支持することが望ましいが、これらの素材の結合形態は支持材に対して縦列結合でもよく、横列結合であってもよい。また、素材ごとに固形化するのではなく、所要の素材を予め混合して固形化し、これを支持材で支持するものでもあってよい。

【0012】 また、素材は固形化するこなく、粉末状又は顆粒状のものを非溶解性のチューブ状の支持材に内包させ、この支持材の一方の端部を開口させ、この開口部を湯等の中に浸漬して攪拌し、内容されている素材を支持材の中で自然に落下させ、或いは押し出しながら逐次溶解させることもできる。そして、この場合も、支持材に内包する素材は素材ごとに区分してもよく、予め混合されていてもよい。

30 【0013】 また、例えば、粉末状あるいは顆粒状の素材を、素材ごとに、或いは予め混合して、これを例えばゼラチン等からなるカプセル状の容器で包装することも可能であり、これらの素材を軽く圧縮して半固形化し、これをゼラチン等で被包することも可能である。これらの場合、これらの素材は支持材で支持されていてもよく、支持材とは分離されていてもよい。

【0014】 また、素材別に固形化したものの結合方法としては、てんぷんのり液、ゼラチン液、ブドウ糖液、白糖液など公知の結合剤を使用することができる。

【0015】 そして、上記した飲料材料は、コーヒー、ココア、抹茶、ジュース等の飲料及びスープ、味噌汁等の食品に対してでも適用することが可能である。

【0016】 更に、上記した飲料材料セットの形状、材料並びに材質等は、後述する具体的な形態例に限定されるものではなく、様々な形態を採ることができる。

3

【0017】以下、本発明の実施形態を具体的な例により説明するが、本発明が以下の例に限定されるものではないことは勿論である。

【0018】図1は、第1の実施の形態例を示す使用状態の視斜図である。即ち、本例はインスタントコーヒーセットであり、専用のカップ（紙製又はプラスチック製）11に、中央に開口10aを有する蓋10を被せて中に湯12を注ぎ、蓋10の開口10aから棒状化された支持体4に支持された材料（コーヒー粉1、砂糖2、粉乳3）を差し込んで攪拌している状態を示している。

【0019】このインスタントコーヒーの材料は、図2(a)に示すように、全体が円形の棒状に形成され支持体4で支持されている。そして、図2(b)に示すように、先端側から固化されたコーヒー粉1、砂糖2、粉乳3の順に結合され、コーンを原料としたウェハース状の支持体4により支持されて一体化し、紙5で包装されている。

【0020】これらのコーヒー粉1、砂糖2及び粉乳3の項目の結合には、船状の糊液を用いて結合後に乾燥させ、同様に中空に形成された支持体4の先端の大径部4aを粉乳3の一部に外嵌させて結合されている。そして、支持体4の他端は持ち易いように小径部4bとして形成されている。

【0021】このような材料間の結合方法は、上記に限らず、例えばゼラチン等を用いてもよく、固形化の材料としてゼラチンを用いてもよい。

【0022】これらの材料は湯に浸すことにより容易に溶け出し、攪拌することにより更に溶解が促進される。従って、このように棒状化することにより攪拌も容易に行うことができる。

【0023】材料の結合順序は、本例に示した以外に、例えばコーヒー粉1、粉乳3、砂糖2の順序であってもよい。そして、好みによりコーヒー粉1のみを溶かしてブラックコーヒーとしてもよく、更に、不要な材料はコーヒー粉1を溶かした後に取り除いてもよく、粉乳3又は砂糖2を加えることも可能である。

【0024】本例のインスタントコーヒーは図1に示す専用のカップを使用（後述する他の例も同様。）することにより、蓋10の外縁10bがカップ11の上縁に係合し、攪拌時にこぼれ易い部分が覆われているので、中味がこぼれにくい。更に湯に限らず、水にも容易に溶ける。また、コーンからなる支持体4はそのまま食してもよい。

【0025】図3は、第2の実施の形態例を示す断面図であって、球状の大径に形成された先端部6aを有し、ストロー状に中空6bが形成された支持体6の先端部が、固形化した材料の中に埋没して材料を支持している。そして、支持体6の先端部6aが大径の球状に形成され、コーヒー粉1の中に埋没しているのを簡単に抜け落ちないようにしており、紙5で包装されている。

4

【0026】材料の配列順序は第1の例と同様にコーヒー粉1の次に砂糖2、粉乳3の順に配られ、船状の糊液で結合したものであるが、この場合は必ずしも結合する必要はなく、例えば砂糖2、粉乳3はリング状に形成し、材料同士を結合しなくてもよい。

【0027】この例の場合、砂糖2及び粉乳3をリング状に形成しておけば、好みに応じて不要な材料は予め取り外して用いることもでき、アイスコーヒーにした場合には支持体6をストローとして利用することもできる。

【0028】図4は、第3の実施の形態を示す断面図であり、コーヒー粉1、砂糖2、粉乳3の順に固形の材料が船状の糊液で結合されている。そして、全体が楕円形の板状に形成されており、船幅部7aを有する支持体7の他端部が直径された球状に形成されて材料の中に埋没され、全体がスプーンのような形に形成され、紙5によって包装されている。

【0029】本例の場合、予めスプーン状に形成されているので支持体も持ち易く、攪拌し易い。そして、上記した他の例と同様に好みにより、不要な材料は溶解させないこともできるし、材料の配列順序は適宜に変えてもよい。

【0030】図5は、第4の実施の形態例を示す視斜図であるが、この例の場合は、材料ごとにそれぞれの支持体8の一端が材料の中に埋没されている。そして、この場合はコーヒー粉1、砂糖2及び粉乳3は材料同士で結合されず、同一の包装材料（図示省略）によって包装されているので、好みに応じて必要な材料だけを用い易くなっている。また、包装は材料別であってもよい。

【0031】図6は、上記した第1の形態例による材料の他の使用例を示す視斜図であるが、通常のコーヒーカップ13を用いて、図2に示した材料を湯12に浸して攪拌しながら材料を溶かしている状態を示している。このように専用のカップ以外のカップを使用することもできる。

【0032】本実施の形態例によれば、1杯分に必要な量の材料ごとに形成されて携帯性の面も優れており、必要ときに携帯し、湯又は水があればどこでも簡単に使用することができる。

【0033】また、図1に示した専用のカップ11の内盤面に、例えば上段と下段に湯又は水の量を示すラインを設けておけば、濃いストロングタイプのコーヒーにする場合は下段のライン、薄いアメリカンタイプのコーヒーにする場合には上段のラインを目安に、蓋10の開口10aから湯又は水を注ぎながらその量を確認することができる。更に、半透明な材料でこのカップ11を作製すれば外部からでもその量が見易くなる。

【0034】

【発明の作用効果】 上述した如く、本発明の飲料材料によれば、互いに種類の異なる複数の可溶性の飲料素材が支持材に支持され、前記飲料素材を溶かす際に前記支持

材がその攪拌に用いられるので、複数の飲料素材を素材ごとに取り出す必要がないため手間が省け、しかも、素材を支持体により支持した状態のまま湯などの中で攪拌して簡単に調合することができると共に、例えば素材を取り出す際に飛散するようなことを防止することができる。

【0035】また、本発明の飲料材料セットによれば、上記の飲料材料を挿入する挿入口が蓋部に設けられている容器を使用するので、攪拌の際に素材等がこぼれることを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態例の使用状態を示し、一部を破断して示した斜視図である。

【図2】同、実施の形態例の材料及び支持体を示し、(a)は斜視図、(b)は(a)のb-b線断面図である。

【図3】同、他の実施の形態例の材料及び支持体の断面図である。

【図4】同、他の実施の形態例の材料及び支持体の断面図である。

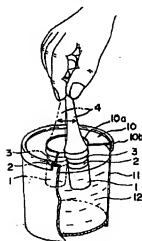
【図5】同、更に他の実施の形態例の材料及び支持体の断面図である。

【図6】同、第1の実施の形態例の他の使用状態を示す概略斜視図である。

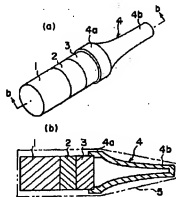
【符号の説明】

- 1・・・コーヒー
- 2・・・砂糖
- 3・・・粉乳
- 4、6、7、8・・・支持体
- 10 4a・・・大径部
- 4b・・・小径部
- 5・・・紙
- 6a、7a・・・先端部
- 6b・・・中空部
- 10・・・蓋
- 10a・・・開口
- 10b・・・外縁
- 11、13・・・カップ
- 12・・・湯（水）

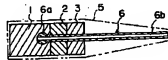
【図1】



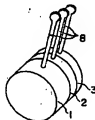
【図2】



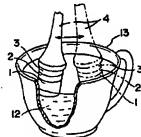
【図3】



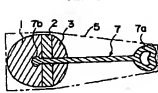
【図5】



【図6】



【図4】



PAT-NO: JP411028059A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11028059 A

TITLE: BEVERAGE MATERIAL AND ITS SET

PUBN-DATE: February 2, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SHINDO, GIICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

ORIGINAL SANGYO KK

N/A

APPL-NO: JP09200929

APPL-DATE: July 10, 1997

INT-CL (IPC): A23F005/36, A23L002/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a beverage material set so as to simplify the takeout of a material for an instant coffee and readily enable the preparation.

SOLUTION: This beverage material set is obtained by binding solidified coffee powder 1, sugar 2 and milk powder 3 as materials into a rodlike shape, supporting and integrating the resultant rodlike material with a large-diameter part 4a of a support 4, pouring hot water into a cup 11 for exclusive use, inserting the material supported by the side of the large-diameter part 4a of the support 4 from an opening 10a of a lid 10 into the hot water and carrying out the stirring.